

---

○議長（渡辺文彦君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

（午後 3時10分）

---

◇ 高 柳 孝 博 君

○議長（渡辺文彦君） 通告順位5番、高柳孝博君。

（6番 高柳孝博君 登壇）

○6番（高柳孝博君） 壇上から、質問させていただきます。

コロナウイルス関連は、経済活動も若干動きが見えてきたところへ緊急事態宣言が出されるなど抑制がかかり、感染が広がる前ほどの賑わいはありません。感染が収束しているとは言えませんが、ワクチン接種を急がされて松崎町の希望者の接種は遅れもなく推移したと思います。医療従事者、保健所、救急隊員、役場の職員、教育現場の関係者の方々、感染防止対策の中での業務など、関係者のご苦労は大変なものがあると思います。

そんな中で、議会だより第132号において、6月号の広報松崎で、町長は『医者が2人しかいないことが、致命的ハンデ』と書いている。1月中旬に、西伊豆健育会から、医師派遣の話を断っていることが、ワクチン接種の遅れの原因であり、町長の怠慢ではないかと思うか。それに対して、町長が『そのような経緯があったと知らない。』というようなくだりがありました。

ワクチン接種は、当初各自治体で・・・との説明はありました。医師の協力が必要であり調整に苦勞されているようだったので、理由もなく断るなど考えられません。

また、ワクチン接種が遅れてるようにも見えません。町長が知らないと答えた経緯は何か、このままでは理由もなく担当者が独断で断ったと取られかねない。何か事情があるに違いないと思いました。そこで、会議の中で、職員の説明を受けようとしたのですが、規則を守らず否決されやむを得ず『議会日誌』を発行することになりました。

わかりにくい、説明してほしい、とのご意見はありましたので補足いたします。

まず、今やる理由。このコロナの最中に・・・なぜ今問題にするかという方がいらっしゃいますが、コロナ禍は収束しておりませんし、書かれていることが事実なら今後の接種体制の課題、ひいては町の医療体制、賀茂地区全体の医療体制を考えるべきと思うからでありま

す。

次に、議会日誌のデータの扱いについて、データと情報を混同されている方がいらっしゃるようですので、経緯を明らかにします。

私は、広報委員会で職員に説明していただけるものと思っていました。事実を住民に説明するにあたり、間違っただけではいけないと考え、確認のため録音してほしいと。事務局に依頼しました。その録音データはCDでいただきましたが、その際、録音データは書類整理のみに使用し、他への公開、提供等しないことを議長と約束しました。私は、そのデータの一部分をもとに議会日誌を作成して町民の皆様に情報伝えました。録音データは出していません。約束は守っています。

公開の可否についてですが、広報委員会は非公開とされていませんし、発行前に議長ともお話をいただきました。費用について心配してくださる方もいらっしゃるようですが、自費でまかないました。

発行の目的でございます。『規則を守る、秩序ある議会運営にする』それを願うことです。

議会日誌を出した理由でございますが、議会だよりを構成する広報編集委員会において、担当者からの説明をいただくように提案しましたが、担当者がワクチン接種で忙しいときに呼ぶべきではないと多数決で否決されました。そこで別途、勉強会として開催する(広報編集委員会と)異なる議員会で説明していただく提案をしました。しかし、規則に反してこれも否決されました。担当職員からの説明が聞けると考えて準備していたのですが、説明を受けることを規則に反して否決され、職員の言葉を聞くことはできず、住民に説明する内容が変わりました。

説明を聞けばそこで終わりだったので、必要なはずの顛末については、『議会日誌』として町民の皆様にお知らせしたとおりです。議会で、事実を議論しない。住民に報告できない議会運営として望ましくないことです。『議会日誌』を発行するとき、議会内のやりとりを出すことに『出すべきか』『出さざるべきか』迷いました。法をチェックする立場で、規則を守らずに進んでいくことを表さずにおけば、波風は立たないかもしれませんが、今後もこのままで良いのかと疑問が残ります。議会内では、規則を守らなくてもおる状態です。住民に判断していただくのが良いと思いました。発行の理由は、規則を守らなくても通ってしまう現状を住民に知っていただき、秩序ある議会運営の道が開けていくことを期待したからです。

幸い多くの方から、激励のお言葉をいただきました。議会は・・

(複数ヤジあり)

(○町長 長嶋精一君 静かにしろ)

(複数のザワつき)

(○7番 藤井 要君 町長発言に気をつけてください。)

(○議長 渡辺文彦君 静かに)

議会は、何やってんだとのご意見もありました。

(○5番 深澤 守君 それに対してだ)

(○議長 渡辺文彦君 静かに。これ以上発言したら退場を求めます。

どうぞ続けてください。)

住民の方のご意見を聞くことができ感謝しております。

説明するにも、コロナ対応で忙しいときに担当に聞くこともできず、この一般質問において時間をいただき疑問を解きたいと思います。

一つワクチン接種体制は、1令和3年1月中旬に、西伊豆健育会病院からの医師派遣の話はあったのか。この時、断ったのかどうかもお聞きしたいと思います。

(2) 医療従事者へワクチン接種の体制から、集団接種、個別接種の医師の体制作りは、どのように推移したか。

3 担当者との情報共有は、どのように進めたか。

4 ワクチン接種後、重症化しないが感染するといわれています。接種済みの方が、新たな感染源とならないようなさらなる取り組みがあるかでございます。

五つ目、3回目のワクチンの接種の動向はあるか。3回目を打つというようにお話も出てきていますので、お聞きしたいと思います。

次に、町政の根幹ともいえる。総合計画の今期における成果の評価と次期の計画について、コロナ禍の影響が大きくできなかったものもあり、コロナ禍での影響を無視できないと考えて質問します。

総合計画について1、令和2年度はコロナの影響が大きかったが、相対的にどの分野が実施できて、どの分野ができなかったと考えるか。

2 ウィズコロナが長引いた場合、K P I・・・重要業績評価指標であります、と、戦略の見直しが必要ではないか。

3 次期計画策定に向けて、今後と・・・今期と異なる考え方は・・・、考え方、手法はあるか

ございます。

また、松崎町まちひとしごと創生総合戦略についても、課題が残っているのではと考えております。松崎町まちひとしごと創生総合戦略について、現有技術、人材、機材、財源があればできるものと、課題として改善検討が必要とされたものとは、実現性に差があると思っております。実現に向けて、何が問題なのか、真の要因を抽出することが必要ではないかと考えてお尋ねします。

以上壇上からの質問を終わります。

(町長 長嶋精一君 登壇)

○町長(長嶋精一君) 高柳議員の質問にお答えします。

大きな1、ワクチン接種体制は・・・ということで、令和3年1月中旬に健育会病院からの医師派遣の話はあったのかということでございます。

お答えします。

最初に申し上げますが、西伊豆健育会病院から医師派遣について、町がお断りしたと・・・町がお断りしたということは事実はございません。西伊豆健育会病院とは、1月下旬に医師派遣についての打ち合わせを行いました。派遣は病院に研修医が来る5月になると・・・、との話があったため、それを元に接種計画を作成しておりました。

しかし、3月に入り急遽町内の医師1名が特別な事情により集団接種から診療所での個別接種へ変更せざるを得なくなり、接種計画の見直しをする必要が生じてまいりました。

加えて、国において65歳以上の高齢者のワクチン接種を7月末までに終了させる方針が示されたため、4月30日に西伊豆健育会病院を訪問し、私と担当課で院長に直接医師派遣のお願いをしたところ快諾していただきました。

6月28日から始まる第2クールにつきまして、集団接種の方法で医師2名看護師1名をセットで週2日派遣していただくこととなり、接種体制の確保はできたところでございます。

ワクチン接種の二つ目、医療従事者へワクチン接種の体制から、集団接種、個別接種の医師の体制作りはどのように推移したのかというご質問でございます。

お答えします。

医療従事者へのワクチン接種につきましては、県が実施主体であるため、詳細についてはわかりませんが、西伊豆地区の医療従事者については、西伊豆健育会病院で接種を受けております。4月下旬に、県より医療従事者用ワクチンが不足している旨の連絡があったことから、12バイアルを西伊豆健育会病院に提供して接種できる体制作りには協力しております。

集団接種につきましては、賀茂医師会において基本的に・・・、基本的には地元の医師の協力を得て実施するよう決めており、町内診療所の2名の医師と12月中旬から協議を始めましたが、1名の医師が個別接種での対応となったことから賀茂医師会に協力をお願いし、西伊豆町の医師1名と町内医師1名の2名体制で第1クールの接種を開始いたしました。

こうした中、第2クールの接種計画では65歳以上の接種を7月末までに終了させるため、個別接種の町内医師も加えた町内の医師2名、西伊豆町の医師1名に西伊豆健育会病院の医師2名にもご協力いただき、週3日医師3名体制を整え迅速なワクチン接種に勤めました。

また、65歳以下の接種につきましては、第2クールの途中から65歳以上の高齢者の余った予約枠を活用したことから、早期に接種を開始することができました。

8月7日からの第3クールにつきましては、県の医療従事者の公募に応募いただいた医師、看護師にも直接協力を依頼して、医師、看護師を確保し体制作りを進めたところでございます。

なお、個別接種につきましては、町内1ヶ所の診療所の協力をいただき、第1クールから第3クールまで継続して実施しておりますが、集団接種が終了する9月11日以降も2月末まではワクチン接種をできる体制を維持していかなければならないことから、個別接種を継続して実施していただくようお願いをしているところでございます。

ワクチン接種の三つ目でございます。担当者との情報どういうふうにしていたのか。

お答えします。

健康福祉課の担当者からは、医師等との打ち合わせ結果や接種スケジュール接種率などについて随時書面により報告を受け、また、簡易なものは口頭で報告を受けております。特に重要な案件については、打ち合わせの時間を設け協議を行い情報共有を図っております。

ワクチン接種の四つ目でございます。ワクチン接種後、重症化した・・・しないが、感染するといわれている。接種済みの方法が・・・新たな接種済みの方が、新たな感染源とならないようさらなる取り組みがあるのかということでございます。

お答えします。

ワクチン接種の効果につきましては、感染予防や発症予防、重症化予、防集団免疫の効果があると言われており、議員のおっしゃるようなワクチンを2回接種したからといって感染や発症を完全に防ぐことはできるわけではありません。

このため、ワクチン接種後も引き続きマスクの着用や手指消毒等『新しい生活様式』の徹底をお願いしていきます。

また、変異ウイルスのデルタ株は、感染力は強くなっているため密閉、密集、密接の三つの密のうち一つでも該当する場合は感染するリスクが高まりますので、一密であっても回避するよう呼び掛け感染防止に対策の周知徹底に努めてまいります。

また併せて、誹謗中傷や差別的な対応がないよう啓発してまいります。

ワクチン接種の五つ目、3回目のワクチン接種の見通しはどうかと、感染力が強い変異ウイルスのデルタ株の流行を踏まえ、ワクチン接種を終えた人の感染予防の効果を持続させるため、3回目の接種（ブースター接種）を行っている、または、計画している国が出てきました。日本においても、現在厚生労働省で検討している状況とのことでありますが、希望する全ての国民の2回接種の完了を優先する考えもあることから、具体的にはまだ決まっておりません。

いずれにしても、3回目の接種の必要性や時期などにつきましては、国において判断するものとなりますので町は決定した方針に従って進めてまいります。

次大きな二つ目の質問、総合計画についてその内の一つ。

令和2年度は、コロナの影響が大きい・大きかったが、相対的にどの分野が実施できて、どの分野が実施できなかったのかという質問でございます。

お答えします。

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症に翻弄された・翻弄され、いまだかつて誰も経験したことがないような状況が続いた年度でありました。この中で、人流の抑制といった感染対策により、観光関係のイベントや公園体験教室、地域活動などといった、人の行動や繋がりを必要とする分野は実施困難となりました。そういう中でも、景観計画の策定や石部棚田振興協議会の設立、防災意識の高揚、GIGAスクール構想の推進などは実施することができました。

二つ目の質問、ウィズコロナが長引いた場合KPI・・・これは重要業績評価指標でございますが、KPIと戦略の見直しが必要ではないのかという質問でございます。

答えします。

ウィズコロナが長引くことは、好ましい状況であることは言えませんが、想定しておく必要があると考えております。総合計画は、経済社会情勢の急激な変化により見直しができる事になっていることからKPIや戦略については、社会状況を見据えた・見据えながら適切に見直しをしてまいりたいと考えております。

総合計画についての三つ目でございます。次期計画策定に向けて、今期と異なる考え方、

手法はあるのかというご質問でございます。

第6次総合計画は、新型コロナウイルス感染症のまん延や地球規模での環境対策、デジタル化の推進など昨今の急激な社会情勢の変化を鑑みながら、松崎町の未来を展望する計画となります。

これまでも計画策定にあたっては、前計画における課題等を検討するとともに住民アンケートや団体からのヒアリング、総合計画委員会、パブリックコメントを実施するなど、町民の皆様の幅広い意見を伺いながら計画を策定しているところでございます。

なお、昨年度から開催している静岡大学の学生や、松崎中、松高生による10年後の松崎を考える2030松崎ワークショップで提案された意見などを取り入れ、より身近な計画となるよう努めてまいります。

次に、大きな三つ目の質問でございます。松崎町まちひとしごと創生総合戦略について、現有技術あるいは財源があればできるものと、課題として改善検討が必要とされるもので、実現性は異なると・・・差が出ると・・・実現に向けて何が問題なのか、真の要因を抽出することが必要ではないのかというご質問でございます。

議員のおっしゃるとおり、戦略実現に向けては、現有資源での限界を知り課題を具体的にあぶり出し問題点を深堀して対応していくことが必要であります。人口減少や少子高齢化など課題の原因となる要因を抽出し新しい技術や新しい価値観をしっかりと理解して行くことが必要と考えております。全国の地方が、同様な課題解決に向け取り組んでおりますので、国県への要望活動を積極的に実施するとともに地域間交流や連携などをさらにはかりながら持続可能な松崎町のまちづくりを進めてまいります。

以上他の議員の質問にお答えしました。

○6番（高柳孝博君） 一問一答でお願いします。

○議長（渡辺文彦君） 許可します。

○6番（高柳孝博君） まず3月の中旬に西伊豆病院さんのお話はわかりました。そして、断ったということはなかったということでしたので、ちょっと私が疑問に思ってたところはそれだけで解消になるわけですけど・・・ほとんど解消したわけでございますが、一方で、私が出した『議会日誌』を読んでいただいた方が、西伊豆病院さんの方に・・・それらしき方にお聞きしたところ、やはりそういったことはなかったということで、だから断ったって言うのは認識の違いでそうなったのかというふうに思います。実際には、断るってことは一般的に考えにくいものですから、なかったということを知って安心したわけでございます。それがな

かったということで、あとはその西伊豆病院さんも含めて、町のお医者さん含めてどのように体制を作っていたか、大変苦勞されたように聞いております。最初は、各自治体で賄いなさいってというような説明があったと思います。そうしますと、松崎町はお医者さんが二つしかありませんので・・・西伊豆町さんは四つあって、どっちかっていうとローテーションを組むにはちょっと不利かなというふうに思います。そういった中で、松崎町からですね約2名の方が西伊豆病院さんに行って、公民館かどこかでやってくれないかっていう・・・お願いに行っただけど駄目だったというような・・・これは噂かもしれませんが、町の方でその依頼して町民の方をお願いしたってということありますでしょうか。

○健康福祉課長（糸川成人君） 町からは、公民館を利用してワクチン接種をするというような計画はございませんので、そういうような依頼をしたとはございません。

○6番（高柳孝博君） やはり私が出した『議会日誌』を見た方がおっしゃられたんですが、西伊豆町の方も当初はやはり自分の中のローテーション組まなきゃなかないけなかったなと・・・。ほいで、西伊豆健育会病院さんの方は、松崎町から支援を受けてることもあるので協力したいとそういう気持ちは持っている。だけど自分のところ、まず組まなきゃなんないから、組むことをやってたんだというようなお話もありました。それは、西伊豆病院さんのその心というのは非常にありがたいと思いますし、実際に協力していただいたわけですので本当に感謝いたします。

で、個別接種、集団接種、個別接種と進めてきた中で、いろいろ医師も入れ替わったり、あるいはそれに携わる方をどのように集めていくか、非常に苦勞されたように思いますが結果的に遅れたということはないというお話を聞きましたし、いただいている資料でもどちらかというところ早く完了したようなふうに見えます。関係者の方の努力は相当あったんじゃないかというふうに思っています。その点についても感謝いたします。

それから、担当者の情報共有についてですが、スケジュールとか当然、接種率とかそういったものは当然やりとりしてるように思うわけでございます。ただ一つお願いしたいのは、議会の中で答弁するときに突然出されてきても答えられないものについては、やっぱり担当者の方と町長とはよくコンタクト取ってやっていただきたいなと思います。そこで齟齬がありますと現れた現象として何も知らなかったというような表現が出てしまうと住民の方に誤解される恐れがあるわけですね。そういう意味で、ぜひ、担当者の方と、町長と意識意識を合わせて答弁をしていただきたいというか、その辺りはいかがですか。

○健康福祉課長（糸川成人君） 町長の答弁にもありましたとおり、随時打ち合わせの結果で



あったり、スケジュールであったりというのは報告をしたり、紙で説明したりというような形でしております。ただ一点ちょっと聞いたのがですね、断ったというところの表現の中でですね、当初の県のワクチン接種の関係につきまして・・・あ、すいません医療従事者のワクチン接種につきまして、これは実際、県が実施主体となって県が計画するものでありますので、町の方についてはどういう計画になってるのかわからない状況があります。そうした中で、西伊豆健育会病院の方からですね、その医療従事者のワクチン接種を手伝いますよというような話が・・・連絡があったときがあります。その時には、「県で実施するので町ではわかりません。」というような形で返事をした覚えがありますので、そうしたところでその勘違いをされたというようなのがあるのかなと思います。そういう・・・その県の従事者の県の計画については、当然わからないものですから町長にも報告をしていないというようなところもありましたので、そういったところでちょっといろんな行き違いがあったのかなということを感じています。

○町長（長嶋精一君） お医者さんが2人しかいないというのは、本当にハンデでした。しかし、こういうコロナのねワクチン接種を7月までやりなさいという国の方針が出て、そういう大きなことを達成しなきゃいけないということになりましたね、どうしてこういうふうな議題がね、町長が知ってるとか知ってないとか、私はこういうときにですね・・・大変なときに、こういうふうなことが起きるのは静岡県内でも、市町でも松崎町だけだと本当に思います。

担当はですね、健康福祉課・・・課長をはじめ、担当課が、西伊豆町のそれぞれお医者さん・・・宇久須の池田先生なり、それから、安良里診療所それから西伊豆町健育会それぞれ個別に交渉をして、やっと先生に来ていただいたということなんですね。これは、とりもなおさず、健康福祉課長と課員が・・・課の人たちが日頃からいい人間関係を作っていたと、だからこそしっかりとした体制が組めたと私は信じて疑わないわけであります。

以上でございます。

（○議長 渡辺文彦君 （傍聴席に）拍手等はおやめください）

○6番（高柳孝博君） 当然、断った認識がないのに断ったというと、それはわからないので知らないってなっちゃうわけですね。ただ、そのことは文書にそれだけ出してしまうと誤解を与えてしまう可能性があるわけですので、今後ぜひこういう回答しようということを認識合わせしていただいてやっていただくと、そういうのがなくなってるかと思しますのでよろしくをお願いします。

それからワクチンの関係ですけど、ワクチン接種後も重症化はしないけど感染はするという事ですので、これを今後ちょっと問題になるような気がします。ワクチンを打ったところでも感染が拡大が減っていない国もあるわけで・・・その中によってはね。だから、それをやはりずっと3密を続けるとか、そういったことを先ほど必要であるということでおっしゃられていましたので、当分続けていく必要があるかと思えます。そのあたりの今後広報的なもの、ワクチンを接種した方に対しての広報・・・なんか打つときに、そういう広報があるやに聞いていますけどそのあたりいかがでしょうか。

○健康福祉課長（糸川成人君） ワクチン委員を接種した後に、15分間の待機して経過観察をするところがありますので、そちらの方で引き続きマスクの着用であったり手指の消毒であったりという基本的な『新しい生活様式』の方を守ってくださいというようなところはお願いをしています。

また、今後でもですねチラシやホームページ等で、そちらの方の広報もそれに努めていければなということで思っております。

（○議長 渡辺文彦君 ちょっと高柳さんちょっと待ってください。

一般質問の途中ですけども、このまま会議を続行しますと、時間が経過してしまう可能性がございます。

私の方からの提案ですけども、一般質問が終わるまで会議を続行することでよろしいでしょうか。その辺の確認をしたいと思いますけど。）

（「異議なし」の声）

（○議長 渡辺文彦君 ではこのまま会議を、時間を過ぎても継続いたします。）

○6番（高柳孝博君） 次に3回目のワクチンの接種の可能性でございますが、ワクチンを接種した後の抗体の推移について藤田医科大学ですかね、その方が209に対して調べましたところ2回目の接種をしてから2週間後の値・・・そんときの抗体の値があるわけですね。その値に対して、3ヶ月経つと4分の1になるというような報告もありました。ケースによって違うかもしれませんが、ということになると3ヶ月以降は抗体がかなり減ってしまうということは考えられます。今後3回打つ、あるいは新しい新種のコロナウイルスが出てきたりすると、また打たなければならないということも考えられるわけですね。その辺り基本的には、国の方針だと思いますけれど、町としてもある程度そういうことが起こりうることで構えなきゃならないとか、その辺りの考え方どうでしょうか。

○健康福祉課長（糸川成人君） ワクチン接種の効果の維持といいますか、接種方の効果につ

いてにつきましてのいろいろな研究調査があるということをございまして、例えばアメリカですと8ヶ月経過するまでは、その前に打っても効果がないと・・・8ヶ月以降に売った方が効果があるよと。いろんなものがありますので、この辺につきましては、国の厚生労働省の方でいろんな検討をしているかと思しますので、そちらの方の教えに従ってやっていけばいいかなと思います。

- 6番（高柳孝博君） 時間もありますので、コロナについてはこれで終わったわけではなくてまだまだ続くと思います。そういう意味では、医療の方あるいは学校の方におきましても、かなり制限を受ける部分があるのではないかと思います。ぜひ感染が広がらないように・・・今のところ3密を防ぐぐらいしかなくて、あとは重症化をすぐ医療体制の拡充みたいなところ、そして、薬剤の供給。そういったものが今後もしかすると出てくるかもしれません。

ちなみに下田のメディカルさんのお話になりますけれど、あそこには感染の病床が4床あるわけですけど最大3床だったそうです。幸いこの賀茂地区っていうんすか、メディカルさんの範囲の中では、今のところ医療崩壊が起きていないというふうに判断するわけですが、ただ、重症の方はなんかやっぱり他に転送、転院するとかそういうことがあって今もっている。報道なんかでいきますと賀茂地区というよりは、西部、中部、東部というような格好で、東部でくるひっくるめて医療崩壊に対しては何%のベッドの使用率が出てきますので、見えないところがあるわけですが、今後、そういうところもやはり考えていかなければならないと思うわけでございます。

そのあたりは何か情報ありますでしょうか。

- 健康福祉課長（糸川成人君） そういう情報につきましては、毎日県の方から公表をされているところをございまして、9月6日昨日現在でございすけども、地域別の重症者の病床占有率ということでございまして、東部・・・県の東部地域・・・こちらの方も東部地域に入りますけども57.1%の病床の占有率ということで、県全体で言いますと60.8%の占有率ということで、まだまだ医療の逼迫というような形の状態になっているのかなあとと思います。

- 6番（高柳孝博君） 今のところ医師とか看護師とか、それから費用についてはほとんど国から来ますので、今のところ困ってるようなことはなかったようです。ただこれから拡大が続くようだとそれはわかりませんので、そういう医療の方の拡大もお願いしたいわけですが、今後ぜひ注視して・・・情報を注視していただいて対処していただけたらなと思います。

それから総合計画についてでございますが、令和2年度はもちろんコロナの関係で人的交流がありませんので、とにかく人的・・あるいは人が集まってやるようなイベントってのはできないわけですね。そういう意味では非常につらいついていうか成果の出しにくかった年ではなかったかと思えます。

ところがまだ、続いているわけですね。そうすると令和3年度にそのまま行っちゃっても、難しいところがあるんじゃないかというふうに思います。若干見ますと、報告の中にもありましたけれど、2年度と比べると若干入場者は増えているような傾向がありますので、ただそれも今後コロナ禍の感染者の拡大によって、もしかすると抑えられる可能性もある。そうすると、そこの営業自体、今成果を出てるっていうところももしかすると、また出にくくなってしまいうんじゃないかという恐れがあるわけですね。その辺り人的交流以外に、新たな施策としてこんなことやろうかなっていうことは・・なかなかこの町は自分の中でGDPを上げろって言うてもなかなか上がらないわけですね。だからどうしても、外からの方による収入増というのを願わなければならない町だと思いますので、そのあたり今後更にですね、今までやってた事業を見直して行くことはできるのか、それともコロナが収まらなかった場合・・収まらなかった場合はこんな線で行く、伸びてきたらこんな線で行くっていうような何かそういうシミュレーション的なものがあるのかどうかですが、いかがでしょう。

○企画観光課長（深澤準弥君）　ただいま議員がおっしゃったとおり、コロナによっていろんな交流等ができなくなっているのは事実でございます。ただし、コロナによって先ほど申し上げましたとおり、テレワークもしくはズームによる会議と新しい形での接点を持つことができ始めております。特に松崎の方だとそんなにあれじゃなかったんですけど、最初の頃のステイホームのときには、だいぶいわゆる家での動画の活用とかテレワークによって、新しい形でのいわゆるニュースタイルでの事業体ができたとということです。

ですので、総合計画につきましてももちろん今の『人流を押さえる』ということは、もう完全に観光はストップしてしまいますけれども、一時期、昨年・・最初の非常事態宣言が東京都に出て人流が止まったときにも、ある程度の人動きがあって、で次のGotoが再開し、Gotoが始まったときには、その分の反動ではないですけどたくさんの方がいらっしやっただきました。今現在、ストップしている人流についても、最初の非常事態宣言とは違った形で、人流が収まらなくて、しかもラムダ株という新しい変異株のせいで感染が拡大しているということで伊豆・・東部についても医療逼迫の状況まできているというような状況でございます。

ただこちらについても、根本的なものはやはり総合計画の中に沿った中で、新しいものを取り入れそして次に繋げていくといったことで進めていければと思っております。

(○6番 高柳孝博君 5分だけ)

(○議長 渡辺文彦君 5分延長お願いします。許可します。)

○6番(高柳孝博君) 働き方の形態が変わってきてますよね。だからそれが痛し返して言うか、テレワークで東京の近隣でテレワークしてしまうと、こっちに来ていただけないということで、いずれにしてもここは業務で来るというよりは、観光で来るということだと思いますので、そのあたり観光で来たときのデジタルの使い方とかWi-Fiとかなんかも広げるようですので、そのあたりが求められてるのか。あるいはワーケーションというのがありますから、観光地でもってお仕事していただくというのがあります。そこら辺がなかなか難しいとは思いますが、やはりやっていく必要があるかと思えます。

今後の生活の形態が変わってくんで、そうすると総合計画っていうのは10年ぐらいのスパンで見ていくわけですので、今までの手法で行っちゃうと・・・今までの人口減少っていうのが一番わかりやすいわけですね。人口減少が一番わかりやすく、それに沿って課題を求めてくっていう・・・今までそういうやり方してると思うんですが、それ以外にも技術の進歩の仕方、それから会社での働き方が変わってきてるっていうことで、少しそこら辺を加味してやらなきゃなんないなというふうに思うわけです。そのあたり何か新たに考えるものはありますでしょうか。

○企画観光課長(深澤準弥君) 働き方も新たな働き方になっておりますけれども、いわゆるライフスタイルについても多様性が求められておまして、さっきテレワークが東京の方は東京近郊でっていう話がありましたけども、ワーケーションという言葉が出て、先ほどもちょっと話がありましたが、全ての方がワーケーションができるわけではない。なおかつ、テレワークにおいては勤怠管理が大変難しいというところで、一番今最新・・・先進にやってる場所っていうのはIT関係が一番多いかと思えますけど、その次の大企業はトヨタなんですね。トヨタは交通費を出して、ワーケーションを推奨してるというような状況の中で、これから松崎はどういった形でそれを受け入れていくか、どういった方向性でいくかということについては、2030年を目指すというようなプロジェクトの中でも話がありますけれども、今までの振り返った10年よりももっと速いスピードで社会が変わるところについては、アンテナを非常に高くしなければいけないし、そういったところに飛び込んでいる方々とのネットワークを作らなきゃいけない。そういったことも含めた中で、まちづくりを進め

ていく必要があるというところになっております。

やはりあの人口減少の問題について・・・戦略については、人口の減少を抑えるというような目標値はあるんですが、現実のところどこもそれをクリアしてるところはなかなかなくて、転入者、移住者を増やしたりしているところが主でございます。ただ、これからは人口減少したその先の社会デザインをどう作っていくかがまちづくりに繋がっていくということで、そういったところを新しい総合計画の方では組み込んでいく必要があるかと思い、それで静大とか外部もしくはうちの中で言うと中高生等を巻き込んだ中で計画を作っていけたら、より将来に対していいんじゃないかというようなことで考えております。

- 6番（高柳孝博君） 先ほども教育長の方からも2030年っていうことで、静岡の未来のあり方っていうことを中学生、高校生を含めて検討してく、あるいはプロジェクトを作って実際にどうやったらこうかっていう動き出したということですね。私も最初の頃参加しましたけれど、的を絞ってこの町をどういう風にしていくんだっていうことが、いろんなテーマが出されておりました。ぜひそれらのテーマを実現できるものからやっていっていただけたらと思います。

なかなか人口減少ってなかなか収まらないと思うんですけど、その中でもいろいろ提案されてるものがありますので、ぜひそこらを実現できるようにお願いしたいと思います。ある意味では、そこにコストをかけなければいけないかもしれません。費用をぜひかけてでもせっかく中学生、高校生が持つてる夢を調査内容に実現できるようにお願いしたいと思いません。何かそういったプロジェクトへの支援というのはどのようにあるんでしょうか。

- 企画観光課長（深澤準弥君） 未来への投資という金額になるかと思えます。ですのでその部分については、やはり将来の町のためにこういった形でお金を投入していくかを、やっぱりきちんと見ながらやっていければいいなと考えております。

その中でも、静岡大学との共同研究という形で、今年度もお金を出したりさせていただいてますので、そういう意味で効果のあるお金の使い方と、いわゆる今ここで注入すべきお金と、この先中・長期に向かって投資するお金ということをはっきりと分けた中で進めていくべきだと感じております。

- 6番（高柳孝博君） 時間も迫ってきましたから最後にさて・・・ウィズコロナが長引いていくと当初のKPIいわゆる目標指数・・・指標っていうのが合わなくなってくるんじゃないかと思われる。その辺りの変更っていうか、それから当然戦略もこれ変わって・・・PDCAを回せば回すほど戦略を変えざるを得なくなってくると思うんです。そのあたりが・・・変え

ることが予算を最初に10年なら10年くらい使うというようなもので予算をとっていくと、単年度で変更するのが難しいっていうのはあるのかどうか、そのあたり変えられるかどうか。いかがでしょう。

○企画観光課長（深澤準弥君） 今の戦略については、K P I があのコロナに対して流動的な数・・・社会人状況なものですから、それに振り回されるようなことがないようにしなければいけないということで、コロナの状況をしっかりと見極めていく必要があると思ってます。最初の頃の1年とか2年とかっていう話で、オリンピックも延長したりして、その中でラムダ株が出てきたりデルタ株が出たり、新しい変異株によって感染の拡大が進んだりしていますが、幸いにもワクチン・・・先ほど来も福祉課の方でしっかりとやっていたらワクチンの接種によって、重症化が防げるっていう一番大事な部分だと思います。それに応じて今度経口薬とかそういったことによって治療薬が開発されることによって、また違った形になってくるかと思えます。そのときに今、最悪の部分の数字をK P I として目標値にするのは適切ではないのではないかとということで、今動向を見ながらですね、そこは考えていきたいと思えます。

○6番（高柳孝博君） まとめていきたいと思えます。まず最初、医師派遣の話は断ったということはないということでしたので、私は、疑問に思ってたところが解消しまして良かったと思えます。

そして、これに携わった方々の苦労というのは、ますますあったのであろうなというふうに推察するわけでございます。ただ今後もやはりコロナ禍っていうのは収まっていない、そこでさらにやらなければならない今の状況というのを考えてみますと、さらなる苦労がこうなってるのかなと思えます。そして、そういった中で今後の計画をどう持って行くか、これは結構大きい課題であるように思います。

基本的に今コロナで人が来ないという中で、いろんな対策を打とうとしても、少なくとも人流を求めるようなものはなかなかできないわけですので、その辺りご苦労はわかりますけれど。また新たな戦略、あるいは新しい技術を使っただいて、来ていただくようなことを考えていただくと・・・いただけたらと思えます。

ありがとうございました。

以上終わります。

○議長（渡辺文彦君） 以上で、高柳孝博くんの一般質問を終わります。

（午後 4時05分）

---